

**It's!**

# ドネーションとは？

'ドネーション(donation)' = 寄付

わざわざ「ドネーション」と書くと長ったらしいので、  
ここでは「寄付」を同じ意味の言葉として用います。

**中学生か高校生と思われる学生達が  
街頭で募金活動をしています。  
「募金は自分達の学校の振興費に充てます」**

**あなたは彼らに募金しようと思いませんか？**

募金をする、という人ももちろんいるでしょう。  
しかし何か違和感を感じなかったでしょうか。

学校の振興費が増えれば、生徒達はより質の高い教育を受けることができるようになるでしょう。彼らに募金をすることは、十分に価値のある行いのはずです。

端的に言うと、  
日本人には彼らの行動は**物乞い**同然に見えます。  
厚かましくも自分達の利益を他人に要求している、  
そのように映ってしまうのです。

アメリカ合衆国では、学校が資金集めのために  
募金を募ることがよくあり、生徒もそれに参加します。  
それに違和感を覚える人はいないようです。

日本人は  
他人に施しをするのは良い行いだ、  
自分から施しを求めるのは卑しい行いだ  
という価値観を持っています。

そのために、自分達のために寄付を募る、  
という行動に違和感を感じます。

しかし、その考え方こそ「寄付」というものに  
**大きな勘違い**をしている証拠ではないでしょうか？

「日本では寄付文化が浸透していない」と言われます  
それはいったいどういうことなのでしょうか。

そして、

どうすれば寄付文化を浸透させることができるのでしょうか。

#givemac2 応募テーマ  
「ドネーション(寄付)文化をより日本で  
広めていくためにはどのような方法が  
あり得るか」

Name: もとき

Age: 15

Mail: [nsorder@gmail.com](mailto:nsorder@gmail.com)

WebSite: <http://m06t625.81.la/>

参考サイト  
フリー百科事典Wikipedia  
<http://wikipedia.org/>

日本人は、寄付が**受動的**な行いである  
という**錯覚**に陥っています。

そもそも寄付は自分の意思で行うべきものです。  
寄付をしたいなら、すればいい。  
それ以上でも、以下でもないはずでず。

学校の振興費を募っていた彼らが  
「自分達から施しを求めている」  
のだという解釈は間違っています。

寄付が能動的なものである以上、  
寄付の対象である彼らは  
「求めて」などいないのです。

寄付を受動的に捉えてしまっていることこそ、日本に  
寄付文化が浸透しない原因であると考えます。

- コンビニなどに設置されている募金箱
- 街頭での募金活動
- 売り上げの数パーセントが寄付される商品
- アーティストなどのチャリティーイベント
- エトセトラ
- エトセトラ

これらは時折見かける寄付活動です。  
逆に、これ以外の寄付活動はあまり見かけません。  
ここには、日本に寄付文化が浸透しない  
もう一つの原因が含まれています。

コンビニで中途半端におつりが出たとき、  
それをそのまま募金箱に放り込みます。

街頭で募金の呼びかけをしているのを見かけると、  
気分次第で小銭を何枚か募金します。

最初から買おうと思っていた商品ですが、  
ついでに寄付もされるなら一石二鳥。

歌手のコンサートが見れると同時に、  
社会貢献にもなっているんです。

**そして、少し満足した気分になります。**

寄付という行為自体が、多分に自己満足の  
含まれたものであることは否定しません。

しかし、

日本人にとって、寄付は自己満足のための手段  
どころか、ほんの**おまけ程度**の行いに  
成り下がってしまっているのではありませんか？

募金箱には気が向けば余った小銭を入れる。  
実はチャリティー関係無しにイベントが目当て。

寄付なんて、本当は**どうでもいい**  
と**考えているのではないですか？**

何かのついでに寄付を行う、  
というやり方は手軽ではありますが、  
同時に寄付という行為の価値を下げてしまいます。  
寄付という行為が軽視される元になってしまいます。

寄付文化が十分に定着していない日本で  
このような方法での寄付活動ばかりが行われている  
という現状は危険極まりないものです。

短期的に見れば少しずつでも確実に  
寄付を集めることができるのかもしれませんが、  
長期的に見た場合、  
それは日本社会に寄付文化が定着するための芽を  
摘み取ってしまう行為に他ならないのです。

以上のことから、

日本社会に寄付文化を浸透させるためには

- 寄付を能動的な行為として捉えること
- 寄付を軽視しないこと

が不可欠であると考えます。

それを踏まえた上で、  
どのようにすれば寄付文化を日本で  
より広めていくことができるのでしょうか。

**その答えは簡単です。**

**寄付をしましょう。**

わたしたち一人一人が  
積極的に寄付を行うよう取り組むことこそ、  
寄付文化をしっかりと日本社会に根付かせるために  
最も重要なことであると思います。

学生達に充実した学校生活を送ってもらいたい、  
と願ったのなら、学校に寄付をしましょう。

恵まれない子供達のために、  
児童福祉施設にランドセルを送りつけましょう。

義援金や救援物資は、きっと  
大変な思いをされている被災者の役に立ちます。

寄付は、あなたの願いを実現させ、  
社会をより良いものにする  
最も適した方法の1つなのです。

にぱー☆